

同じ日に、両極の家族の話に接して

24日夜、NHKで「この子と生きる～ダウン症・命の記録～」で家族を取り上げたドキュメンタリーが放送されていた。一方、同じ日の河北新報夕刊には、茨木市で「母親が外出中に、父親（53才）が、自分で動けない障害のある娘（27才）を浴槽で殺害し、自殺をしようとして彷徨っているところを逮捕された」との記事。

一方は、寄り添い共に生きる（生きようとする）家族の話、一方は、子育てに自信をなくした家族の話。同じ日にこの両極に位置する放送・報道を見聞しただけに、複雑な思い……。

当HPの記事（障害や難病にかかわる……）にお寄せいただいた以下のようなメールに接すると、私達一人一人がどう考えるかを問われているようにも思います。

私は「両刃の面」ということを感じ始めています。やはり、自閉症児を演じることはとても難しく、そして危険なことだと思いました。全く、自閉症児を知らない人にとったら、あれが全てになってしまうのではないかと。

ある人からの相談からも思いました。その人は知り合いにちょっと気になるお子さんがいて、自閉症ではないか……周りから言われ、学校でいじめのようになっているとか。このことには、今のドラマも関係している様子。

知らない世界をドラマやテレビで知って、理解してくれる人が多くなるのはいいと思いつつ、その理解もどういうものか、という不安もあります。いろいろな人が見て、さまざまな受け止めがある。どう気持ちや理解が変化していくのか……怖い気がします。

私は障害のある人に、仕事としてかかわっているけれど、給与に換えられない自分の心を成長（修行）させてくれる人たちと感謝しています。

その意味で職場（仕事）で考え行うことは、その心を反映させていることになります。人がその仕事に評価してくだされれば、それは、目の前の人たちが評価につながるので心して励みたいと思っています。

親は責任があるから一生懸命取り組みますが、兄弟・姉妹は、障害児を看てる親との三角関係にちょっと苦労したり、かかわり（！？）や絆も親とは違うみたいでしたよ。

（2004年04月25日記）